

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 9 月 20 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200338		
法人名	社会福祉法人 I G L 学園福祉会		
事業所名	I G L グループホーム西風新都		
所在地	広島市安佐南区沼田町大字大塚字長畑 1 0 9 4 - 1 (電話) 082-848-3373		
自己評価作成日	平成23年9月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3490200338&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成23年10月7日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用者一人一人の思いを大切にしたケアを心がけている。 職員間が意見を言い合える環境作りをしており、ケアに反映できる体制をつくっている。 開設して1年目の施設だったので今後はさらに地域の行事やクラブ活動に参加していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

・当事業所は母体の医療機関や関連の福祉・介護事業所との連携のもとで、利用者一人ひとりが地域の中で、四季を感じながら生活感のある暮らしを続けられることや、生活リハビリをとおして機能的な維持が出来る体制が構築されている。 ・介護計画は、利用者個々の思いや意向が反映された内容が盛り込まれている。家族も介護計画の作成に係っており、家族の意見も尊重し、その人らしい介護計画となっている。 ・常日頃から全職員で話し合って介護の質の向上に努めており、家族等から出された意見は母体組織や関連の事業所とともに、謙虚さをもって改善に取り組んでいる。
--

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念の意味をミーティングで話し合い目につくところに掲げている。朝の朝礼で唱和していて、施設のユニットの目標を理念にし、具体化して掲げている。	法人理念に基づき、利用者個々にあった環境づくりに取り組んでいる。ホーム独自の理念は、今以上に利用者の方々が自宅と同じ生活ができるように、現在全職員が話し合い作成準備をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	夏祭り行事では地域への広報を行い実施している。利用者とともに地域夏祭りに参加している。小学校の社会見学受け入れや、中学校の職場体験も受け入れを進めている。近隣の「サムエル未来保育園・幼稚園」の園児との交流がある。また、近隣施設との行事交流や、運営推進会議での情報交換を行っている。	母体組織や関連事業所とともに、地域の情報を集めながら活動に参加したり、ボランティアの方との係わりを積極的に持ちながら、関係を深める取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所内での認知症研修勉強会は常に行っているが、地域においてはまだまだだと思う。 地域との運営推進会議で、認知症理解の場を作っていく必要がある		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、日々の生活状況や、行事などの取り組みの報告を行っている。それに対し、地域有識者、家族、ご本人、包括支援センターなどの方々からの意見をお聞きし、スタッフで話し合い、次回の行事に反映させるよう計画したり、日々のサービスへ繋げていくよう心がけている。	運営推進会議には、多くの家族の方や地域包括支援センター職員が参加し、要望や助言を得ながら、ともに良いホーム作りに取り組んでいる。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議開催の案内を行い、会議録を送付し、連携を図っている。また、運営推進会議等で包括支援センターの職員との連携を深め、情報の収集と相談等を行うようにしている。	常日頃から母体組織の協力を得ながら、市担当者にホームの課題や現状報告をしながら協力体制を作っている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加しており、ホームとの連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の勉強会を行い、理解を深めている。帰宅願望のある方などの危険防止のために、必要に応じて職員と付き添い外出し、気分転換を図っている。施設内の他の事業所との交流はスムーズに行えている。施設玄関の施錠はしていない。面会などは自由に来て頂ける様、ご家族と連絡を取っている。	日中は玄関や居室を施錠せず、職員が利用者の外出傾向等を把握し、付き添いや見守りを行っている。法人全体で身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束に関するマニュアルのもとで、個別事例を通じて勉強会を実施し、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止の勉強会を行い、何故虐待が起きるのか、理解し意思統一を深めている。 転倒による打撲など、ご本人の身体にある些細な事もヒヤリハットにも記入し、大きな事故にならないよう、スタッフ間で意思統一し、虐待などの防止にも繋がっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員会議で勉強会を行っている。日常生活の中では、自立支援に向けて、ご本人の意思・思いを大切にし、DT＝気ばらし療法やご本人の持っておられる「出来る事」を引き出す関わりを取り入れている。成年後見制度については、ご利用者の思いをよく聞き、心配事があれば、この制度利用も含めて検討・提案していく方針。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に「運営規定」「重要事項説明書」に基づき説明を行っている。入居後も家族と連携を図り、不安、疑問点があれば、説明を行い、理解を得られるように対応している。また、家族の来所時に、家族が安心できるよう、入所での様子を伝え、話し合やすい雰囲気を作るよう、心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置している 家族来所時に会話を持てるようスタッフに統一している、来所が少ない家族には写真を送る、電話で近況報告する等を実施している。また、運営推進会議の場など、あらゆる機会を利用してご意見、ご要望などを伺える機会として対応している。	日頃より利用者及び家族等から個別に意見や要望等を聴くよう、声かけに努めている。意思表示が困難な利用者に関しては、家族からの情報や本人の表情等により、本人が望んでいることを推し測りながら運営に反映させている。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回のケアミーティングやその他ユニット会議を必要時開催し、意見など聞く機会としている。業務改善として反映させている。	管理者は、職員の自主性を導き出すために、各種委員会を設けて、積極的に役割と責任を持たせている。要望等を管理者に言いやすい関係が出来ていることがヒアリングで確認できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半期ごとに各個人が業務に対する目標、計画をたて、評価している。 個人の努力、スキルアップを把握できるよう面接をしている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月1回の定例学習会では介護に必要な研修を施設内の職責者が講師となって学習会を行っている。また、月1回の職員会議で法人内で伝達講習を行っている。また今年度はキャリアアップ研修として、県の支援をうけ、3回の外部講師を招いて研修を行った。その他必要時、介護技術アップのための研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	夏祭りなどの行事の中で、お互い施設に参加し、交流を行っている。また、運営推進会議に参加頂き、お互いの活動交流を図っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	施設に慣れて頂けるよう、初期は細やかな観察と声かけを行い、一人ぼっちにしないように心掛けている。困っている事、不安な事など、常に耳を傾け、伝えることができる方にはコミュニケーションをとり、伝え易いよう、安心できるような声かけを行っている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	初回面接時に限らず、行事や来所時等を通じて、生活状況をお伝えし、写真を送付するなど施設での生活を伝えるようにしている。またコミュニケーションを深める中で、家族の思いをお聞きし、家族の都合により、代わって受診介助を行うなど、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期の段階では、出来る限り情報の収集に努め、アセスメントを行い、ご家族・ご本人の希望されるサービスに対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人のその日の状態や気持ちに寄り添い、一緒に生活をしている事を意識し、方付け、洗濯を行う、配膳時は一緒に行うなど、共に出来る事を行っている。また食事やお茶など一緒にテーブルで楽しむなど、共に生活している環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族の絆を大切にするため、共に本人を支えていく関係を築いていけるよう、常に連絡を取り合い、ご本人に同じ視点での関わりが出来るように心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人が不安な気持ちにならないよう、声かけや否定することのないように努めている。面会時には、ご本人の部屋でゆっくり過ごせるように配慮したり、行事の時には家族や友人・親戚の方々にも面会に来ていただけるようご案内している。	利用開始時に利用者の基本情報を聴き取りする際、本人及び家族等から馴染みの人や場所について確認しながら、これまでの関係が継続できるよう支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	フロア内での利用者様の関係づくりは日々行っている。あいさつ、会話をされる姿がみられ、顔馴染みの関係が図られている。なかなか他者との会話をされない方には、スタッフの方からきっかけを作り、会話の機会をもてるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も挨拶状を送ったり、写真を送ったりしている。 家族からも現状の経過、電話等があり、施設を離れても関係作りは大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方についての希望は出ていないが、ご家族や入所時のライフヒストリーから、ご本人の思いを引き出したり、いろいろの機会を捉えて要望を引き出すように努めている。表出困難な方に対しても、上記の情報から、喜んでいただけるような対応に努めている。	常日頃から、全職員は利用者一人ひとりの思いや希望等を大切にし、把握に努めている。意思表示が困難な利用者の場合は、家族からの情報や日常の様子を観察し、意向を推し測るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの暮らし、生活環境の把握は家族から話やライフヒストリーを基に、スタッフ同士情報交換し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの一日の過ごし方を、自分らしくその人らしくして頂くために、随時声かけを行っている。精神的に落ち込んでいる時など大げさにせず、無理強いせず対応している。また他のスタッフとも現状の把握に努め、情報交換している。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	改めて、本人・ご家族・担当者で行う、担当者会議のような場は設けていないが、ケアスタッフ間でのミーティングを話し合いの機会としている。この場で、本人の希望、家族の要望も取り入れた介護計画をたてている。	普段の会話等から本人の想いを汲み取るほか、ケア会議に家族に参加してもらい要望を反映させた計画を作成している。3ヶ月に1度計画の評価を行い、利用者の状態に合わせて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気づき情報に対する工夫、実践を行い、個別記録に記入し、統一した対応に心掛けている。実践の評価をモニタリングとして記録していくことが今後の課題となっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ユニット内だけでなく両ユニット間で自由な交流を行い生活されている。時々の行事や催し、コンサートなどの企画があれば、施設内の他の事業所と一緒に取り組みに参加するなど、柔軟な対応を行っている。また希望があれば外出などの機会を利用して、家族との時間を大切にしてくれるよう柔軟な対応を取っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のスーパーに買い物に行ったり、公園での花見や、施設前の道路の掃除など、また地域の夏祭りへの参加など、地域と繋がりを持ちながら、生活を楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は、ご本人ご家族の意向を大切に受診に結び付けている。往診での診察を望まれる場合や、ご家族が定期的に受診に付き添われる場合など。健康状態の把握については、医療とも連携を図り、情報提供など行って信頼関係を築いている。	かかりつけ医の選定や通院方法については、家族や利用者の希望に沿っており、連携医以外での受診内容はその都度家族から報告を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週一回訪問看護を受けている。この時に日々の様子や直近日の状態を把握し、情報提供している。状態により、主治医への報告や指示を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後フェースシートにて情報提供を行っている。入院後は面会に行き、体調の確認など、情報収集を行っている。家族とも連絡を取り、思いを受け止め、必要時には病院の地域連携室職員とも連絡を取り合い、ご本人、ご家族の思いと施設の状態を報告し連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	「重度化・看取り」について本人、家族の考えを聞き、事業所で出来る事と家族の思いを再確認する機会としている。内容は書面にしている。	重度化や終末期の在り方については、事業所の方針があり、入居時や状態に応じて、利用者や家族と話し合い、方針を共有している。医療機関と連携し、利用者や家族の意向を踏まえて、ホームが看取ることができるまで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的には、月1回の学習会の時に、感染症や転倒防止の為の移乗の方法など、タイムリーな内容も含めて学習はしている。その他不定期ではあるが、マニュアルにそって勉強会も行っている。今後さまざまな場面を想定して勉強会を計画していく必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防訓練を定期的実施している 運営推進会議で災害時地域との協力体制を協議している。 職員への周知は訓練を行った時に反省会のまとめとして報告し、再確認しているが、意識の差がある為、機会がある毎に、喚起していく必要がある。	母体法人と合同で避難訓練を実施し、全職員が安全に利用者を誘導できるような体制を作っている。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	清掃等で居室に入る場合、必ずその方に一言かけてから居室に入るようにして る。またその方の言葉をきちんと受け入れ、否定はしないよう心がけている。 ゆっくり優しい口調で話すようにも心がけている	常に本人や家族の視点に立って、個人を尊重した適切な呼びかけや利用者を気づ つけない支援に取り組んでいる。特に入浴やトイレ介助の際には、態度や言葉遣い等でプライバシーを損ねないように、 研修や日頃のミーティングで意識の共有を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	その時、その時で本人の思いや希望が違 うので、本人の希望がかなえられるよう 気持ちを落ち着けれるよう、じっくりと 本人にあわせる。またそのような環境づ くりを作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたい か、希望にそって支援している。	気を使って、なかなか思うことが言い出 せない方もおられるが、入浴等、スタッ フとマンツーマンで話せる環境を作っ ている。またどのような時でもその方から 言いたいことがあれば、仕事の手を休め てきちんとそばに行き、希望に添えるよ うに話を聞いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれが できるように支援している。	男性は毎朝個人のひげそりをしていただ いている。服等なかなか言い出せない方 は選択方式で服を選んでいただいたり、 化粧の習慣がある方には家族の方との連 絡を取りながら、化粧品がなくなるなど よう中身を補充している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利 用者と職員と一緒に準備や食事、片付 けをしている。	ほぼ毎日利用者様の体調を見ながら、そ の方、その方にあったできる範囲のこと で混乱なく食事が楽しくできるよう、準 備、食事、片づけをすることができてい る	職員と利用者は、準備・食事・片づけま でを一緒に行っている。また。食事の内 容や食材などの希望・意見を聴きなが ら満足をして貰えるように対応している。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量の記入は全員に行っている。特に水分量の少ない方は水分摂取表を使用、一日の水分量が一目でわかるよう記入している。また好みの飲み物で摂取していただくよう工夫している。食事に対しても食べにくいものは切ったり、固いものが苦手な方には、やわらかい食べ物をお出しできるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアについては毎食後歯磨きを行っている。義歯の方は問題はないが、自歯の方は無理強いせず自分で歯磨きできるよう声かけしている。そのために、中には口の中の汚れを確認できず清潔かどうか不明な方もおられる		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の失敗等あるいは不穏時に失敗がみられることがあるため、そのような時はそばについてやり方をひとつひとつ説明し、不安のないように声かけをしている	排泄チェック表を活用して、排泄の時間帯を把握し、利用者のサインを見逃さないようにトイレ誘導を行っている。トイレでの排泄支援に力を入れ、排泄の失敗やおむつの使用を減らせるよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の予防と対応については、一人ひとり対応が異なる為、主治医と連携を図り、一人ひとり適した方法で便秘の予防を行っている。なるべく薬に頼らないよう、食物繊維の多い食品や、運動などを取り入れて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴については一人ひとりの希望で入りたい日に入らせていただくように心がけている。特に希望がない方については、入浴表を見て調整している。入浴時間については声かけしながら、意思確認して入浴していただいている。	利用者一人ひとりの希望等に応じた入浴を支援するとともに、入居者の体調にあわせて臨機応変に対応している。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	一人ひとりのその日の体調に合 わせ、休息して頂く様に声かけ している。就寝については、お 一人おひとりの状況に応じて 気持ちよく眠られるよう支援し ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	薬の目的や副作用については、 スタッフ間で申し送り等を利用 して情報交換している。薬が変 更した際、ふらつき等がないか など、常にスタッフ同士情報を 共有し、場合によってはその 際の様子などを記録に残し、症 状の変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	一人ひとりの役割や楽しみごと の支援について、女性は比較的 、役割のあることを率先してさ れることが多い。全員でできる こと、少人数でできるレクレー ションやゲームを日々メニュー を変えて行っている。ときどき 近くのスーパーに買い物に出か けたり、パンなどの訪問販売が 楽しみになっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	一人ひとりの希望に添って戸外 にでかけられるように努めてい る。出来ない日は日程調整をし て、極力外出の楽しみに繋げら れるようにしている。地域の人 々と協力しながらの外出はない が、地域の活動に参加したり、 交流することはある。	その日の気分や体調に合わせて 、散歩、買い物、ドライブ等に 出かけたり、関連の事業所で行 われる行事に参加するなど、あ らゆる機会を通じて外出支援に 取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	ほとんどの方の所持金は金庫で 預かっている。必要な時には 所持したり、使えるように支 援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかける場合は、本人自らが掛ける事はなく、まず職員が家族と話をし、それから本人に代わっている。手紙のやり取りは、送られてくることはあるが、日常的には本人から送ることはない。年賀状や暑中お見舞いはがきを絵手紙にして頂き、スタッフが宛名を書いて送ったりする支援を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用ホールには、ご利用者と一緒に作った作品の展示や季節感のある絵を飾ったり工夫をしている。浴室・トイレなどの共有の空間では、不快にならない様に温度調節や混乱をまねくような刺激物を避ける等の工夫を行い、気持ちよく生活できるよう心がけている。	テレビの音量、エアコンの温度などに気を配り、快適に過ごしてもらえるよう配慮をしている。お花を飾ったり、季節毎に掲示板の絵なども変え、工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用ホールでは一人で過ごしたいと思われれば、無理強いせず、過ごしていただいている。また気の合った方達とも一緒にテーブルで過ごしたりされている。上手くいかない時は、テーブルの位置を変えたりして、穏やかに過ごせる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は仏壇があったり、以前使用していた筆筒や使い慣れたものを置いている。また家族の協力を得て、飾り物や大切な人の写真を飾るなど、安らげる空間を作り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	使い慣れた布団や日用品等を持ってきてもらい、個性を大切にしながら居心地良く過ごしてもらえる環境となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自分のできること、清掃、テーブル拭き、たたみものなど、ケアプランに沿って統一したケアに心掛け、自立した生活が送れるよう支援している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼で唱和してして理念を共有し、職員が個々でいつでも見ることができる場所に掲示している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的に交流することはできていないが、7月には地域の方々を招いての夏祭り行事をおこない、多数の方に参加していただいた。地域のかたのボランティアもあった		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域に向けての取り組みはまだ行っていないので来年度に向けて認知症についての講座を開催することを計画している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度運営推進会議を開催し、報告を行い地域の方々、ご家族等の生の声を聞き実際のケアに生かしている		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	特に日常的に連絡を取ることがこの1年間なかったが、今後は必要に応じて連携と取っていきたいとおもう。運営推進会議の報告はおこなっている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	GHのフロアから2Fに降りるためにはエレベーターを利用するが、利用者様の安全を考慮して暗証番号が設定してある。但し、利用者様の希望に添い散歩に出たり買い物に出たりしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	市で行われている研修に職員が参加した。その発表を職員会議で行い職員全員に周知している。実際はお互いに注意をしながら実務に当たっている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護の研修は行っているが、実際に利用しているかたがないので職員間では実感がないと思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時の際は契約書、重要事項説明書をもとに説明し疑問点はその都度訪ねてもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	グループホーム開設一年目にあって家族様にはアンケートを行った。意見をいただいた個所はケアミーティングで職員同士見直していきたいと思う		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	半年に一回の個人面談を行い個人の目標を設定し、それを振り替える機会を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月に一度衛生委員会を設け、現場で困っていること、問題点を挙げ改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	今年度は2カ月に1回外部からの講師を招いて研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	運営推進会議や、夏祭り等の行事には地域のグループホームにも案内をだし、お互いに参加している		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	常にゆっくり話を傾聴することを心がけている。ほんのささいな事柄にも耳を傾けそこから利用者様の思いをくみ取るよう努力している		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所のときに利用者様のライフスタイルヒストリーをききだし、ご家族や本人の困っていること等もそこから引き出すようにしている。家族面会があつた時はその時々で利用者の様子を伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その時々で必要とすることは変化してくると思われるので、気がついたことがあれば、迅速に家族に連絡を取り、ケアミーティングで職員間で話し合いをおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様と一緒に食事をする。一緒に体操をする、又一緒に片づける等、実際に家にいたなら・・・と考え、共に生活する家族のような関係でいれるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族が訪問された時は明るく出迎え、近況の状態や表情などを必ず伝えるようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会に来てくださったときを除き支援はできていない		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	話のあう利用者様同士を同じテーブルにすわってもらったり、同じ趣味の方同士でレクリエーションに参加してもらったりしてる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	グループホームでの生活が難しくなった方には他の施設の相談員と連携会議で話し合い、その後の入所施設をすすめている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意思を尊重し、決してこちらからのおしつけでない生活を提供している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族や本人様により、これまでの暮らしぶり、趣味など活動の様子をたずねて、それに近い形の生活ができるように援助している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケアが一人に集中しないよう注意し、皆様が満足していただけるように気を配り、又日々の心身の様子観察を怠らず行っている		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	行動障害等、さまざまな問題が発生したら、そのつどスタッフ間で話し合い、どのような対応をしていけばよいか、統一したケアをおこなえるよう努力している。しかし、利用者全員に対しては行えておらず問題点は多いと思う		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の生活記録をケアチェックシートに記入している。その他月一度のケアミーティングで個別ケアの話し合いを行い、その都度変更箇所は職員で統一している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	たとえば、帰宅願望のひどい方には一緒に家にかえり、そこで食事をとったりしながら本人が安心できるようなケアを心がけている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のクラブ活動に参加する計画もあったが、この一年は実行できなかった。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2週間に一度事業所のかかりつけ医の往診があり、利用者の様子をみてもらっている。以前からのかかりつけ医を利用している方もおり、家族と連絡を取りながら定期受診してもらっている		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調不良の場合は直ちに報告することはもちろんだが、週一回訪問される看護師には伝達事項や相談等記入する表を作成し、もれなく申し送れるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には定期的に病院に訪問し、地域連携室の相談員と情報交換している。また、ご家族の希望や、退院後の生活なども連絡をとりあって、お互いに意思の疎通をはかっている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	最後のありかたをどうしたいか、希望をきいている最中である。かかりつけ医や家族の協力が得られたり、条件が整えば、今後は看取りをできるように、環境づくりや職員の意識統一も行っていきたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防署のかたのご指導をいただいて、災害についての訓練は実際に夜間と昼間を想定して、避難訓練を行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事業所内での避難訓練はおこなっているが、地域の連携はまだ詳しくは詰めていない。運営推進会議では地域での訓練の様子を伺っており、次回の地域での訓練に参加したいと思っている		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日々共に暮らしていく家族のような関係でありながらも、介護職の立場であり常に丁寧な言葉かけをしているが、ときどき馴れ馴れしい言葉も出ている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定ができるゲスト様にはその希望に沿ったケアを行っているが、自己決定ができないゲスト様に対してはこちらの思いを通して思うように思う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	当グループホームの生活に慣れてこられたゲスト様に関してはそのような支援ができていないが帰宅願望や不穏な症状のあるゲスト様にはなかなか希望に添えない日もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ときどき着重ねしたり、毎日のように同じような服を着たりしているが、声かけをしながら対応している。お化粧をしたいかたを一緒に買い物に行ったりして道具をそろえている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	当グループホームでは調理はしていないが、配膳や片づけ等は一緒におこなっている。また、好みの部分に関してはおやつなどで考慮している		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	食事摂取表の記入を行い変化があればす ぐに確認できるようにしている。水分は それぞれの方の必要量を把握し、必ず摂 取できるよう皆で統一している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に見守り、付き添いしながら確実 に行えている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	こちらが決まった時間に誘導するという よりも、そのかたの排泄のパターンを考 慮して誘導したり、夜間の排泄パターン に応じてパットの使用方法を変えたりし ている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	現在、特に問題はないが、便の確認は細 かく行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	ほとんどのゲスト様に満足していただ いているケアができている。一人のゲスト 様に関しては何度か入りたい、入浴した ことを忘れる等の理由で満足していただ けていない		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	利用者様それぞれの生活のペース に合わせて臥床時間を設けたり、 居室におられる時もとときどき 様子観察を怠らないようにして いる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	薬の内容については理解すること に努め、眠前薬については副作 用に特に注意している。服薬介 助はセット時もチェックし服薬 時もWチェックし、確実に行っ ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	家事的な作業を手伝っていただ いたり、縫いもの、編み物など している。また歌声の絶えない 環境である。散歩もおこなっ ている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	日常の買い物に出かけたり秋 の紅葉狩り、春のお花見など季 節の行事を行い出かける機会を 設けているが、利用者様の状 態等を考慮しながらもう少し 頻繁に外出できるようにしたい と思う		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	お金の管理ができる方、買物に 出かけることが好きな方には希 望に添って買い物に同行してい る		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話をかけていただいている。また、梅雨明けにはご家族に書中葉書をだした		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	一か所の空間にずっとおられることのない様に、自由に行き来していただいている。明るさや温度に関しては個人個人の希望が大きく違い皆様が居心地良い空間作りはできていない		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自由に行き来していただいている。またそれができない方にはこちらから声をかけ配慮している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	これまで慣れしたしんだ家具などを置くなどしている。ご本人が作成した作品を置くなどして、自分の部屋を意識していただいている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	日付の掲示は利用者さんに変えてもらって季節の感覚を促したり、場所が分からなくならない様に、トイレの掲示をしていたりしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 IGLグループホーム西風新都

作成日 平成 23年 11月20日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点, 課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	13	施設内での消防訓練は 数回行っているが近隣 住民等、施設との協力 体制がまだ確立されて いない	災害時にお互いに助け 合える協力体制の確立	来年度の訓練計画に近 隣住民との合同消防訓 練を検討する・又は地 域の防災訓練に参加す る	
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。